

令和 6 年度 東京藝術大学 未来創造継承センター

芸術資源活用プロジェクト 実績報告書

※Word ファイルで提出してください。

プロジェクトの タイトル	能楽のクリエイティブ・アーカイブ -東京藝術大学邦楽科第三講座を対象に-	
実施責任者 (申請代表者)	氏名	所属／学年／役職 (所属がない方は未記入)
	澤田 澄	東京藝術大学大学院音楽研究科邦楽専攻 能楽囃子小鼓 2 年
実施期間	2024 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日	
実施内容 ※申請書の「プロジェクトの概要」や「実施計画・方法」に記載した内容について、実際にどのようなことを実施したのかについて記載。 (500~600 字)	本プロジェクトは、未来創造継承センター芸術資源活用プロジェクト「クリエイティブアーカイブ陵域」において、能ホールの 3D スキャンを実施したものである。AMC 特別講師秋田亮平氏および映像研究科修了生阿部文香氏の協力により、精度の高いデジタルアーカイブを完成させた。作成した 3D データは、小学校や高齢者施設でのワークショップにおいて事後学習用教材として活用し、能への理解と関心を深める成果を上げた。資料作成には Adobe ツールを活用し、国立国会図書館にて文献調査を行い、既存書籍を参考にしながら、よりわかりやすく親しみやすい副教材を開発した。これにより、副科謡曲「能楽・宝生流」授業で一年間継続的に利用され、音楽学部「邦楽実技論」の授業にも展開された。また、留学生向け英語ワークショップ用に英語レジュメを作成し、小鼓体験講座を英語で実施することにも成功した。さらに、映像研究科メディア映像専攻坂根大悟氏の協力のもと、シテ方宝生流水上優准教授の仕舞のモーションキャプチャデータを取得し、能の身体表現の高度なデジタル保存にも寄与した。本プロジェクトにより、伝統芸能資源の保存と普及に向けた新たな展開を実現することができた。	

実績報告

※プロジェクトを通じてどのような成果を得ることができたのかについて具体的に記載。
(500～600 字)

※別途、プロジェクトの実施状況や成果が分かるものを画像ファイルもご提出ください。
(必須)

本プロジェクトを通じ、能楽に関する文化資源のデジタル保存および教育活用の両面で大きな成果を得ることができた。能ホールの 3D スキャンデータは、小学校および高齢者施設でのワークショップにおいて、事後学習教材として実際に使用され、参加者からは「能舞台の空間性を直感的に理解できた」と好評を博した。副教材の開発にあたっては、国立国会図書館における文献調査と Adobe ツールを活用した資料制作を行い、これにより副科謡曲授業や音楽学部「邦楽実技論」授業で継続使用される成果を得た。また、留学生向けに英語レジュメを作成し、英語による小鼓体験講座を実施できたことは、能楽の国際的な普及可能性を広げる実績となった。さらに、シテ方宝生流水上優准教授の仕舞のモーションキャプチャデータを取得し、能の身体表現の可視化と保存という新たな試みにも成功した。プロジェクト全体を通して、伝統文化の保存と普及に向けたデジタル技術活用の実践的モデルを提示できた点が最大の成果であり、今後のさらなる展開に向けた基盤づくりに大きく寄与したと考える。

※本様式に加え、補足資料として PDF ファイルや音声データ、映像データ等の提出も可。(必須ではありません)